

2024年9月8日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒279番 (SK 姉)

『深き主の愛は』

聖書⇒イザヤ書 9章 1~5節 (MY 姉、MM 姉)

『闇の中を歩む民は、大いなる光を見／
死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。』

あなたは深い喜びと／

大きな楽しみをお与えになり／

人々は御前に喜び祝った。

刈り入れの時を祝うように／

戦利品を分け合って楽しむように。

彼らの負う軛、肩を打つ杖、虐げる者の鞭を／

あなたはミディアンの日のように／

折ってくださった。

地を踏み鳴らした兵士の靴／

血にまみれた軍服はことごとく／

火に投げ込まれ、焼き尽くされた。

ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。

ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。

権威が彼の肩にある。

その名は、「驚くべき指導者、力ある神／

永遠の父、平和の君」と唱えられる。』

礼拝讃美歌⇒73番 (旧 228番)

『いかなる恵みぞ』

聖書⇒ヘブライ人への手紙 5章 7~10節 (SK 兄)

『キリストは、肉において生きておられたとき、激しい叫び声をあげ、涙を流しながら、御自分を死から救う』

力のある方に、祈りと願いとをささげ、その畏れ敬う態度のゆえに聞き入れられました。キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれました。そして、完全な者となられたので、御自分に従順であるすべての人々に対して、永遠の救いの源となり、神からメルキゼデクと同じような大祭司と呼ばれたのです。』

(祈)

礼拝讃美歌⇒98番(旧187番)(SK兄)

『馬槽の中に』

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11章 23~26節 (SK兄)

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。』

(式)

礼拝讃美歌⇒144番(旧59番)

『憂きこと四方も』

《建徳》

聖書⇒マタイによる福音書 18章 21~22、23~34、35節 (TM兄)

『そのとき、ペトロがイエスのところに来て言った。「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。」

そこで、天の国は次のようにたとえられる。ある王が、家来たちに貸した金の返済をしようとした。返済し始めたところ、一万タラント借金している家来が、王の前に連れて来られた。しかし、返済できなかったのも、主君はこの家来に、自分も妻も子も、また持ち物も全部売って返済するように命じた。家来はひれ伏し、『どうか待ってください。きっと全部お返しします』としきりに願った。その家来の主君は憐れに思って、彼を赦し、その借金を帳消しにしてやった。ところが、この家来は外に出て、自分に百デナリオンの借金をしている仲間に出会おうと、捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。仲間はひれ伏して、『どうか待ってくれ。返すから』としきりに頼んだ。しかし、承知せず、その仲間を引っぱって行き、借金を返すまでと牢に入れた。仲間たちは、事の次第を見て非常に心を痛め、主君の前に出て事件を残らず告げた。そこで、主君はその家来を呼びつけて言った。『不屈きな家来だ。お前が頼んだから、借金を全部帳消しにしてやったのだ。わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか。』そして、主君は怒って、借金をすっかり返済するまでと、家来を牢役人に引き渡した。

あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであらう。』

聖書⇒ルカによる福音書 17 章 4 節

『一日に七回あなたに対して罪を犯しても、七回、『悔い改めます』と言ってあなたのところに来るなら、赦してやりなさい。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 20 章 16 節 (EK 兄)

『イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。』

聖書⇒マルコによる福音書 6 章 7~13 節

『そして、十二人を呼び寄せ、二人ずつ組にして遣わすことにされた。その際、汚れた霊に対する権能を受け、旅には杖一本のほか何も持たず、パンも、袋も、また帯の中に金も持たず、ただ履物は履くように、そして「下着は二枚着てはならない」と命じられた。また、こうも言われた。「どこでも、ある家に入ったら、その土地から旅立つときまで、その家にとどまりなさい。しかし、あなたがたを迎え入れず、あなたがたに耳を傾けようもしない所があったら、そこを出ていくとき、彼らへの証しとして足の裏の埃を払い落とさなさい。」十二人は出かけて行って、悔い改めさせるために宣教した。そして、多くの悪霊を追い出し、油を塗って多くの病人をいやした。』

礼拝讃美歌⇒277 番 (SK 兄)

『われらの讃美は』

《建德要旨》